

連結財務諸表 (要旨) 単位:百万円、単位未満切り捨て

■ 四半期連結貸借対照表

科目	期別	当第2四半期	前 期	前第2四半期
		平成23年9月30日現在	平成23年3月31日現在	平成22年9月30日現在
資産の部				
流動資産		15,401	15,203	15,054
固定資産		5,250	5,385	5,620
有形固定資産		4,254	4,403	4,568
無形固定資産		46	43	50
投資その他の資産		949	938	1,001
資産合計		20,651	20,588	20,675
負債の部				
流動負債		699	681	695
固定負債		607	600	594
負債合計		1,307	1,281	1,289
純資産の部				
株主資本		19,818	19,824	19,767
その他の包括利益累計額		△475	△517	△381
純資産合計		19,344	19,306	19,385
負債純資産合計		20,651	20,588	20,675

■ 四半期連結損益計算書

科目	期別	当第2四半期	前第2四半期
		平成23年4月1日から平成23年9月30日まで	平成22年4月1日から平成22年9月30日まで
売上高		2,437	2,467
売上総利益		781	803
販売費及び一般管理費		802	916
営業損益		△21	△113
経常損益		△26	△122
税金等調整前四半期純損益		31	△542
四半期純損益		△5	△568

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科目	期別	当第2四半期	前第2四半期
		平成23年4月1日から平成23年9月30日まで	平成22年4月1日から平成22年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		△76	△590
投資活動によるキャッシュ・フロー		90	348
財務活動によるキャッシュ・フロー		△0	△0
現金及び現金同等物の四半期末残高		1,657	1,368

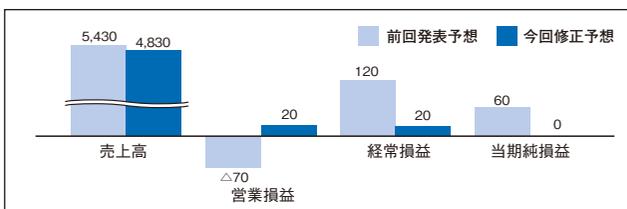
平成24年3月期 通期業績見通しを修正 (平成23年11月11日公表)

第2四半期連結累計期間における売上高は、光ディスク成形用金型等の需要が低調に推移し、予想を下回ることとなりました。損益面では、製造コストの合理化により営業損益が改善しましたが、為替差損を営業外費用に計上した結果、経常損益、四半期純損益は予想を下回ることとなりました。

第3四半期以降も円高や欧州の景気低迷、タイで発生している洪水の影響等、当社グループを取り巻く事業環境は不透明感が増すことが想定されます。こうしたことから、平成24年3月期の通期連結業績予想につきましては、平成23年5月13日に公表した予想値を下記のとおり修正することといたしました。

前期から当期にかけて経営基盤の強化に注力し、利益を創出できる企業体質への変革が確実に進んでいます。今後は売上拡大に軸足を移し、早期に株主の皆様に対して利益還元を行えるよう努めてまいります。

(単位:百万円)



■ 株式の状況

発行済株式総数	9,333,654株
株主数	3,905名

■ 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人	〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-78-2031 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店 日本証券代行株式会社の本店および全国各支店

株式会社精工技研 広報課

〒270-2214 千葉県松戸市松飛台296番地の1

TEL 047-388-6401 (直通) FAX 047-311-5129

E-mail ir@seikoh-giken.co.jp WEB http://www.seikoh-giken.co.jp

SEIKOH GIKEN

株主通信

第40期 第2四半期(累計)事業報告

平成23年4月1日～平成23年9月30日

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より当社に対しまして格別のご支援を賜り誠にありがとうございます。

当社では、前期より取り組み始めた長期経営計画「マスタープラン2010」に基づく施策を展開しております。既存のお客様との関係維持、新規の顧客開拓への取り組み、さらに人件費や研究開発費、減価償却費等の固定費を減少させ、損益面において前年同四半期から大幅に改善することができました。

今後とも強固な経営基盤づくりに邁進してまいりますので、一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

上野 昌利

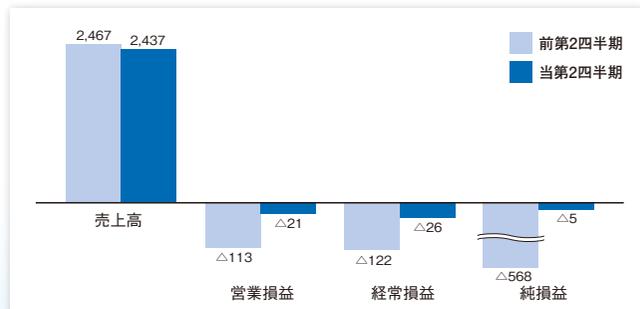
当第2四半期(累計)の業績/事業別の概況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、欧米経済の減速感の強まりを背景に、中国を中心とする新興国の景気拡大ペースは鈍化いたしました。わが国においては、東日本大震災の復興需要や消費マインドの改善を受けて、景気は回復基調で推移しています。しかしながら、長引く円高や、財政再建のための増税、歳出削減の本格化等、企業収益や個人消費に対する下押し圧力は払拭できない状況が続いています。

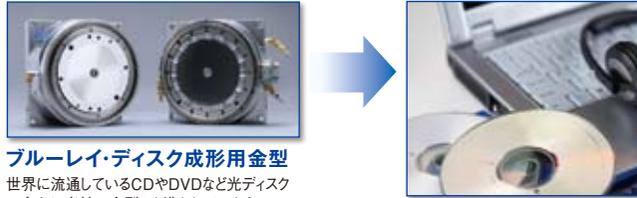
こうした経営環境の中で当社グループは、光ディスク成形用金型および高耐熱レンズを主力製品とする精機関連、光通信用部品を主力製品とする光製品関連の両セグメントにおいて、前期より取り組み始めた長期経営計画「マスタープラン2010」に基づく施策を展開いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間における連結売上高は2,437百万円となりました。損益面においては、人件費や研究開発費、減価償却費等の固定費が減少したことにより前年同四半期から改善し、営業損益は21百万円の営業損失、経常損益は26百万円の経常損失となりました。四半期純損益は、固定資産売却益等を特別利益に計上した結果、5百万円の四半期純損失となり、多額の特別損失を計上した前年同四半期からは大幅に改善することができました。

(単位:百万円)



精機事業 — DVD/CD/BD/その他 —



ブルーレイ・ディスク成形用金型

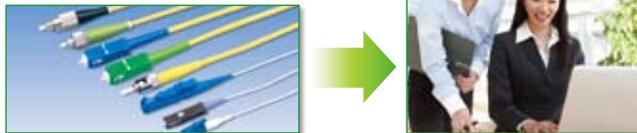
世界に流通しているCDやDVDなど光ディスクの多くは、当社の金型から造られています。

光ディスク成形メーカー各社の設備稼働率は総じて低調に推移しており、光ディスク金型のメンテナンス、交換部品等に対する需要は低迷しています。新たな光ディスク製造ラインを増設する顧客需要は乏しく、新規金型の販売は厳しい状態が続いています。一方、携帯電話に搭載されるカメラ向けの高耐熱レンズの売上は、中国の顧客に向けて堅調に拡大いたしました。こうした結果、当第2四半期連結累計期間の精機関連の売上高は444百万円となりました。

光製品事業 — 接続部品/光部品/製造機器 —

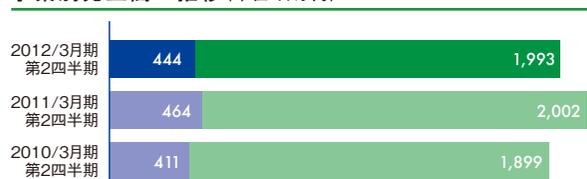
光ファイバコード

インターネットを快適に楽しむための光通信網には欠かせない製品です。



光通信市場は、インターネットを介して流通するデータ容量の増大に応じて拡大が続いています。中国を中心とする新興国ではFTTH化が加速し、米国や国内においては、顧客のデータを保管管理するデータセンターの敷設が進むなど、光通信用部品に対する需要は増加しています。しかしながら、並行して部品の販売単価の下落も進み、販売数量の増加に応じた売上の増加は難しい状況となっています。こうした結果、当第2四半期連結累計期間の光製品関連の売上高は1,993百万円となりました。

事業別売上高の推移 (単位:百万円)



長期経営計画「マスタープラン2010」 成果と取り組み

Point 1 事業の再構築

経営資源の選択と集中を行い、筋肉質な企業体質を実現する。

Point 2 事業拡大

グローバル・マーケットインの営業戦略と商品戦略により、事業拡大を図る。

Point 3 組織変革

機能別組織体制へ移行するとともに、独立採算運営、損益責任の明確化を図る。

人件費や研究開発費等の費用は 着実に減少しています。

前期には2回にわたって希望退職者を募集し、合計で54名の社員がこれに応募いたしました。また前期から当期にかけては、研究開発案件の選択と集中を行い、当第2四半期連結累計期間においてはファイバレーザ装置の開発から撤退し、同レーザに用いるハイパワー用光部品の開発に資源を集中することとしました。さらに、前期には一部の固定資産の減損処理を行った結果、減価償却費の負担も軽減されています。利益を創出しやすい企業体質への転換は確実に進んでいます。

人件費・研究開発費・減価償却費 合計額半期推移 (単位:百万円)



成長する中国市場のニーズを捉え、 杭州精工技研の売上が拡大しています。

中国ではインターネット環境の光化が急速に進んでいます。また、携帯電話を介した通信環境の高速・大容量化に伴い、光通信インフラの需要拡大に拍車がかかっています。こうしたビジネスチャンスを確実に捉えるため、当社グループは前期から杭州精工技研の営業強化に取り組んできました。日本本社から杭州精工技研に出向社員を派遣し、営業員を増加させるとともに営業組織を再編し、光通信用部品やこれらを製造するための製造機器、高耐熱レンズ等の販売に注力した結果、杭州精工技研の売上高は急拡大しています。

杭州精工技研 売上高半期推移 (単位:百万円)

